

二度目の新年

「ピンボケの写真ですが、JRのくずれた線路の上で、かわってしまった冬の町をみてるような鳥を見ました。動かないのでケータイで写しました。

町をどんな思いでみてるかなと思ったら愛おしく 近かづきました。

線路のそばには子供のころからの知り合いの工場がありました。今 まだ見つかっていません

動かない鳥を見て 姿をかえて立っているようで 動かない鳥としばらく一緒にいました」

(改行、送り仮名、句読点など原文のまま)

聞き書きでお世話になっている方からのお便りのなかに、お手紙とは別に、急いで書かれたような横書きの筆跡(上に全文を引用)と、鳥の写った一枚の写真が添えられていました。その鳥の写真は、町の荒涼とした津波後の光景をみるよりも、はるかに現実の厳しさを感じるものでした。鳥は、まだ見つからないあの人なのです。そして鳥の足元にあるのは、このあいだまで毎日、当たり前のように見ていた工場の跡なのです。お会いすればいつも、楽しく昔のことを話してくださるこの方の、喪失感というものに今まで気づかずにいた自分のうかつさ。自分が『本当の本当の部分は何もわかっていないんだ』という現実を知らされたような気がしました。

立きながら読むことしかできませんでしたが、年の瀬の寒空に、お手紙を下された方の心が少しでも暖まる出来事が、これからたくさん起こるように祈りました。

花の色は 雪にまじりて 見えずとも 香をだに匂へ 人の知るべく 小野篁

(聞き書きプロジェクトMEMOKKO 2012年12月25日ブログより抜粋)

約32万人の方々が避難先で2度目の新年を迎えました。避難所もまだ一カ所あり、福島県双葉町の155名(双葉町HP・12/18現在)が、埼玉県加須市の旧駒西高校で暮らし、ボランティアの炊き出し支援等を受けています。生活復興がなかなか進まないなか、被災地各地では、海が見えないほどの巨大堤防の建設計画が着々と進行しています。



朝市へ行ってきました!



すけさきた大雪号でご紹介した「ハモニカ横丁朝市」を、東京在住のオオタさんが訪ねてくれました。タコと櫓のタワシをゲット、さらに写真も撮ってきてくれました。

RQWの担当の方によると、吉祥寺には



地元の仲間がいないため、朝市のためには始発電車で1時間以上の道のりを移動、手で運べるだけの荷物でディスプレイと販売をしなければならないそうです。

おしゃれ朝市の隣に、がんばる人々あり! 朝市の荷物と心が軽くなるように、みなさんどうぞ朝市をお訪ねくださいね!

毎月第三日曜 ハモニカ横丁朝市

AM7:00~10:00 吉祥寺駅北口1分 次回開催は1月20日です。

撮影:オオタさん(3点とも)

文責:井上文子(西表島エコツーリズム協会 東北復興支援担当)

we support!

RQ

災害教育センター

復興支援
「東北に黒糖を送ろう! 大作戦しんぶん」改め
「すけさきた」

すけさきた

しんぶん

寒期日

「すけさきた」とは宮城県登米市あたりの言葉で「ボランティアに来てよ」という意味である。

